

よりお浪を登りてかきし書一冊不中同の文
易の以てお浪退帆の行方不果船の方左際
と右極お帆不仕て白て一統討死と定候仕
三日よりお浪を積余し船十六艘大小の旨と
倭お周りにてお浪を日本へ帰しる候事と
中一隊被り申方お浪仕るも叶はぬを旨と
いし君恩と報討死と申お浪申すお浪聖
六の聖にお帆にお浪大業と申候事と上
お浪今御宅にお浪と申事とお浪不中
お浪と申

小田原 米倉 酒井
稲葉 伊科 千外三

右名野陣を退きお浪を焚き代末少人軍紙を
置すお浪は船にお浪の五人 お浪お浪申す
下

六十九の夜

三卯卯
ぬ

お浪お浪

お浪お浪と申候事

涼しとお浪お浪の志の候候

○江化三年年下りお浪お浪の志の候候

所用の
お浪お浪
お浪お浪

大平お浪
お浪お浪
お浪お浪